

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年7月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690101243
法人名	社会福祉法人 厚徳会
事業所名	グループホーム いこいの泉
所在地	鹿児島県鹿児島市泉町9番5号 (電話) 099-805-3590
自己評価作成日	令和3年6月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年7月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者が形にとらわれず自由きままに生活している。食事の時間も決まった時間に提供するのではなく本人が食べたいという時間や覚醒している時を見計らいお出ししている。本人の生活、本人の時間を大切にしている。
- ・その人らしく生活している。
- ・できてもできなくても、その方の思いを大事に、可能な限り計画し実現に向けて取り組んでいる。
- ・毎月、ヒヤリ・ハットを基に事例検討会を行っている。(職員が入居者となり思いを知る為に立場を変え劇を行い、何をどうしたかったのか?本人の思いを知り、事故防止や身体拘束の予防に努めている。)
- ・介護度が高くなっても五感に程よい刺激を受けながら生活できるよう取り組んでいる。
- ・コロナ禍となりの一年、外出の機会が少なく面会も思うように出来なくなった毎月の郵便物に本人自筆の手紙や写真等同封して、「元気です」とお知らせの工夫、おやつを作ってみたり、ベランダの園芸を再開始したりとストレス軽減に気配りしている。

- ・当事業所はビルの2~3階にあり、2ユニットのグループホームである。
- ・24時間医療連携体制が整っており、受診や往診があり、本人や家族の安心につながっている。
- ・家族への報告は広報誌を通じて手紙を添えたり電話で行い、家族との良好な関係ができています。
- ・利用者は生活リハビリを頑張っており、排泄に関してもトイレ介助にておむつを使わないケアに取り組んでいる。
- ・福利厚生があり、職員間のコミュニケーションも良く働きやすい職場である。長期に働いている職員が多く離職者が少ない。
- ・毎月、ヒヤリハットを基に事例検討会を開いて事故防止に努めている。
- ・年2回避難訓練を実施し、抜き打ちで災害自主訓練も行っている。
- ・介護相談員が2名おり、家族の意見や要望に応じている。
- ・利用者と職員が仲がよく、信頼関係ができています。
- ・管理者は職員のレベルアップを図り資格取得者が多く、意見や提案を良く聞き、サービス向上に活かしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事あるごと（勉強会や事例検討会等）に地域の中で生活されているということ、生き甲斐尊厳のある生活その人らしさとは何かを折に触れて共有につなげている。	理念を玄関・和室・スタッフルームに掲示し、毎月の事例研究会や勉強会で確認している。4つのケアモットーを毎月の目標にして日々のケアに全職員が取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出の機会に恵まれない、日時（人混みをさけて）をみて、cutに行くことで他者とのふれ合い、マンションの方々とのあいさつをしている。	町内会に加入しているが、地域との交流は自粛している。エレベーターの中でのあいさつや医療機関受診時・散髪時・散歩の時などで交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	コロナ禍にて運営推進会議も4回/1年しか開催出来ず、地域広報誌も止まっていたが、今年は年に2回出すことを計画し実現にむけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	この一年は実質4回しか開催できていないが、面会時の家族への近況報告等行い意見もきいている。	会議は4回開催し、コロナ感染防止の取組状況・活動状況・ヒヤリハットの報告等を行い、参加者から意見を聞いている。家族間の情報の要望があり、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>事業所更新や加算関係にあたり市役所担当の方にわからないことをきいて教えて頂いたりして他GH事業所にも問い合わせあれば共有している。</p>	<p>市担当者とは、書類関係で窓口に行ったり、電話で相談や助言を貰っている。介護保険課とも連携を密にしている。介護相談員の受け入れも行っている。市主催の研修会やズーム研修会等にも参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止推進委員が各ユニット2名ずつおり、身体拘束ばかりでなく、言葉遣いでの心の拘束、行動の抑制という点に気をつけている。1回/1月身体拘束廃止委員会からとすることで共有し、1回/3月は身体拘束適正化委員会も行なっている。</p>	<p>毎月、身体拘束廃止委員会を中心に内容を共有し事例検討会も行っている。行動抑制・心の拘束等にも配慮し、拘束しないケアに取り組んでいる。日中の玄関の施錠は行っていない。外に出たい時は職員が同行している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事例検討し利用者の思いを知ろうとする取り組みを行っている。ホームでの勉強会にも年に1回は取り入れている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>ホーム外研修への参加これが権利を守るということなのでは？…と、日々の中で気づくことあれば共有している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>コロナ禍ではあるが入居前に簡単ではあるが見学して頂き説明している。大事な事項に関しては詳しくしている。又、利用料金で新規・変更分があれば同意書を頂くにあたり説明も行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>コロナ禍で職員も家族との対話もなくなり、少しでも家族の思いをひろいあげられるよう意識している。面会もない時は、特にこちらから安心出来るように広報誌等で近況報告をしている。</p>	<p>利用者からは日常の関わりの中で意見や要望を把握している。家族からは電話や広報誌で近況報告をしたり手紙を書いたりしている。家族に安心してもらえるように詳細に報告している。介護相談員が2名いるので、家族の思いを汲み取り運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>運営に関する事を含めて、年1回自己評価を行い代表者との面談を設け最後に管理者が面談している。又、リーダー会で改善点を話し合い全体会にて職員全体に反映している。</p>	<p>年1回職員は自己評価を行い代表者や管理者の面談を受けている。リーダー会では運営に関することも含めて改善点等の話し合いを行い、全体会にて報告している。長期勤務者が多いので働きやすい職場で、意見や提案は運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>面談時に来年の抱負をあげてもらい、面談で自己評価のホームに対しての要望を参考に実現できるように努力している。管理者は代表者に必要に応じて相談している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的にホーム内でも月に1回勉強会を行い、ホーム外研修も最低年1回は参加できるように（本人希望の研修参加）研修計画を立て参加し勉強会で報告して頂いている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>交流する機会が減り閉鎖的になる傾向にある為マンネリ化しないように心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>馴れるまでは馴染んでいられない方より係わる時間を多くし、皆の会話に入りやすいように職員が間に入ったりと時や場所の工夫をしている。また、職員間で情報の共有を図っている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>何に対して困っているのか？先ず聴いてわかりやすく説明し、「いつでも連絡して下さい」と声かけ連絡しやすいようにしている。コロナ禍の今は特に必要に応じて電話で報告している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>予約いっぱいであっても電話での説明・見学をして頂いている。状況によってはその方に合ったサービスを紹介したりしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>時に流されつつあることもあるが、「主体は入居者であること」を折りに触れ声掛け合い協働することを大切にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人を支えるのは先ずご家族であり、私達であること。ご家族とは電話・来訪や郵便等でも報告、相談しており、どのご家族とも信頼関係を深めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>コロナ禍の中でも、面会できなくても来訪されたら、玄関先で近況報告など心掛けて関係性の継続している。</p>	<p>コロナ禍で面会を自粛していたが現在は玄関先で会えるように配慮している。電話の取次も行い、近隣への散髪にも出かけている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>一人一人の性格、特性を知り誤解が生じない様、程よい距離を保ちつつ関係調整をしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>せっかく頂いたご縁と出会いなので大切にしている、退居された方から紹介されたりして相談の電話などくることもある。近隣、知人に紹介されて見学に来訪される方もある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意志や思いを記録に残し、職員間で共有し思いを把握するように努めている。又、困難な場合は時間をつくりゆっくり話を聴いたりご家族とも話し合っている。	日常の会話の中での思いや意向を記録し共有している。利用者に「どちらがいいですか？」と声かけし表情やしぐさから把握している。困難な場合は家族とも相談しながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	教えて頂ける範囲で情報収集している。ご入居してからは本人からのエピソード記憶などを随時記録して共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日によりけりなので、職員同志「今日は大丈夫かもね」「昨夜、不眠だったから厳しいかもね」「ひと眠りしたから大丈夫かも」等々と確認しつつ出来ることにつなげている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録は本人の思いを基に記録し職員同志、本人、家族の要望を取り入れている。又、要点をしばりカンファレンスへの不参加の方にも意見を出してもらい参考にし共有して計画立案している。	利用者・家族の思いを大切にカンファレンスを行い介護計画を作成している。モニタリングは随時行い、見直しは6ヶ月で実施している。状況に変化があった時はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の思いがプランのどの項目か考えて記録ができるように工夫し、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍にて、他事業所とのサービス取り組めていない現状だが、時期を見計らい再開始していきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防や、協力病院との連携体制もとれているので安心。短時間であってもcutへの外出などを活用し近隣を散歩などしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力病院に限らず他病院でも電話などで相談助言を頂いている。ご希望があれば以前からのかかりつけ医の継続も可能である。	ほとんどの利用者が協力医療機関を受診し電話で相談や助言を受けている。3ヶ月毎に協力医療機関からの往診がある。24時間医療連携体制が整っている。家族が連れていくこともあるが事業所と連携をとりながら適切な医療が受けられる支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院は歩いていける距離であり必要に応じて受診し、相談しやすい先生もいらして往診もして下さる。夜間緊急時も当直看護師が来訪し、日常の健康管理も訪看にて助言を頂き受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の面会が出来ない為、病院に電話で状況を尋ねて家族に報告したりしてご家族と三者一体になり取り組んでいる。病院の相談員にも間に入ってもらい退院も進めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時と介護度3を目安に家族には思いを聞いている。又、本人の状況に応じて早めに家族と協議し方向性を定め、職員にも報告し医療との連携を図っている。看取りの場面も事前のカンファレンスを行い職員全体で共有し一丸となって本人をサポートしている。	重度化・看取りの指針がある。介護度の進行により家族と相談し、全職員で情報を共有している。医療との連携をはかり、家族の協力をもらいながら対応している。看取りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル化しているが全員がきちんとできるように必要に応じて事例検討会で緊急時の対応にも備えている。又、その都度職員間で話をする機会を設け、対応の仕方を話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災・地震・風水害・津波・火山、それぞれマニュアルを作成し、火災をはじめ地震を想定し規定の年2回は必ず行い、適宜職員・入居者だけで自主訓練を行っている。</p>	<p>年2回消防署の指導の下、避難訓練を実施している。自主訓練を抜き打ちで、オムツ交換時や入浴中等、いろいろな想定で行っている。備蓄は水や缶詰等を準備している。各自リュックに手袋等を準備し、点検もしている。災害対応は男性職員が中心になって行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の念を持ち一人一人の人柄、誇りを大事にプライバシーを損ねないように心掛けている。声の大きさやトーン言葉遣いに、疑問を感じたら会議で報告し討議している。	権利擁護の研修会や勉強会を必要に応じて実施している。トイレ介助は利用者にささやくように行い、「腰回りチェック」というように言葉を変えて対応し、個々の人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時やレクリエーション、お手伝いの時その都度本人の意思を確認してやっている。したくない方は、しない旨を意思表示してくれるので尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のその人のペースを大切にしている。日によっては起きる時間、食べる時間も本人の時間を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	髪型や洋服1つにしてもその方の好みがありその都度お聴きして、その日に着たい物を着て頂いている。足浴の時に爪切りをしたり気付いた時に耳かき等整容は努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>メニューの説明、献立の相談に味見、切る音、においを感じて頂けるように五感に刺激を与えている。場合によって台所に入ってもらい、味見をして頂いている。</p>	<p>刻み食は食べる直前に本人へ見せて刻んでいる。利用者は盛り付けや味見・洗い物等を職員と一緒にしている。てんぷらパーティやそうめん・たこ焼き・いこもち・ホットケーキ等を作ったり、正月はおせち料理や季節により松花堂弁当風にアレンジして、食べることを楽しむ支援を行っている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>お粥の方や必要に応じて刻んだり食器の工夫やその方にあった食台の高さの工夫をして食べやすいようにしている。本人の飲みやすい飲み物で水分を摂って頂いたりそれでも食べられない時は主治医に相談し補助食品を処方して頂き食事と組み合わせている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後口腔ケアは実行している。身体的低下もあり、1日を通して必ず1回は一人一人付き添ってお手伝いをしている。又、口腔衛生指導も受けて相談、助言を頂いていることで口腔内トラブルもない。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>尿意がしっかりある方はRHパンツから自分の下着に替えて、トイレでの排泄をしているが失敗につながる様に十分な配慮は心掛けている。又、量に応じてパッドも選び不快の軽減にも務めている。</p>	<p>排泄チェック表を参考にしながら職員間で声を掛け合って利用者がトイレでの排泄ができるように支援を行っている。昼間は布パンツにパッドの使用が多い。排泄用品も個々に合わせて、排泄の自立に向けた支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬ばかりに頼らずホーム手作りのヨーグルトを1日1回食べて適度な運動をして予防に取り組んでいる。主治医に相談したり、腹部マッサージ、温沈、補水等（オリーブオイルやオリゴ糖）なども活用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	高齢化が進み、大義であったりして「入らない」と言われる方もいる。ご本人に、意思を確認して全身清拭や足浴（バスクリン入れて）温泉気分を味わってもらおう等している。又、全身の皮膚の状態等、確認し清潔保持にも心掛けている。	入浴は利用者の体調や気分を確認して支援している。足浴用容器に入浴剤を入れたり、シャワー浴や清拭等、利用者の状況に合わせて支援している。入浴を拒む場合は時間をずらしたり、介助者を変えたり、タイミングを見て声かけして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	和室ソファに横になったり、リビングでうたた寝していたりすれば、風邪ひかないように膝掛けを使用したり、自室で休むか声掛けを行っている。清潔なシーツで休んで頂けるように定期的に交換を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに内服状況（副作用も記してある）を綴じていつでも見れるようにしている。居宅管理薬剤指導やその都度電話で相談し、医師へ上申して頂く手配もして下さっている。職員の薬の理解に対して個人差がある為、理解に努めたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いが得意な方がいたり、レクが好きな方もいらっしゃるのでスタッフが「何をしたいか」意志確認を行い、昨日は何をしたかを確認して一緒に楽しめる工夫をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で家族が購入し面会に持って来られたり職員が聞いて購入している。又、この時期が過ぎたら行きたい場所、食べたい物などききとりを行い、楽しもうとしている。	コロナ禍で外出が困難であるため、近隣散歩や職員の提案でベランダ菜園を始めた。医療機関受診時や散髪に出かける時等は、少し遠回りをして散歩（外気に触れる）ことを楽しんでいる。年間計画の秋の遠足を楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今はコロナ禍で本人が支払いや使う時はないものの、個人で購入したい物ある時は買えるように準備してある。今は、職員が行なっているが、コロナが落ち着いた時には使える時を作っていく、いつでも要望があれば所持できるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも電話がきたり掛けたりしている。又、本人に届いた葉書はお渡ししている。代読したりしている。コロナ禍で家族に手紙書いて元気であることをお知らせしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の空間作り（貼り絵で季節感を感じてもらい、一緒にすることで会話も弾む）。又、不要な音（テレビの音、スリッパの音、職員の声のトーンにも）は控え、室温・湿度にも気をつけている。	リビングは広く明るい。四季を感じられるようにひまわりや朝顔等の季節の花を飾っている。換気・室温・湿度に気を配っている。和室のソファの配置は利用者間の相性の気配りをして、楽しく会話ができるように、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にソファがあり、居心地のいい空間作りに心掛けている。お互い譲って頂き自由に座れる。会話が弾み笑い声が聞かれたり、会話をしたり、各々に声かけ合って楽しく過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分なりに片付け（整理・整頓）をされて居る。出来ない場合であっても共に行なっている。ご家族が持ってこられた物は本人と話しながら部屋に置いたり飾ったりしている。又、飾りたい物、カレンダー等あった時はご家族へ相談して購入し楽しめる部屋作りを行っている。	居室は、ベッド・エアコン・洗面台・チェストが備え付けてある。家から持ち込まれた寝具類やテーブル・椅子・仏壇・ラジオ・家族写真・時計・ぬいぐるみ等、家族と相談して設営し居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その日の体調を考慮して、できること・できないことを見極めている。又、トイレ等もわかりやすく表示し、照明も程よい明るさを保ち環境を整えできやすい工夫をしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない